

令和5年度 伊那市立高遠中学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
<p>学則得(学び則ち得る)</p> <p>○学と得は一体であり、知と行は表裏、学は徳である。自らが主体として学ぶことで全ては得られるのである。</p> <p>○実学尊重</p> <p>知育・徳育・体育の調和を求め、情操のいよいよ高く深く人間存在を求める。いよいよ高きもの、いよいよ遠きものを仰望する実践の姿</p> <p>“仰之愈高 望之愈遠”</p> <p>之を仰げば愈々高く 之を望めば愈々遠し</p>	<p>「高遠の子」実践目標</p> <p>①挨拶愛語 ②清掃不言 ③花作相見 ④歌声響合</p>
	<p>今年度の重点目標</p>
	<p>(1) 求めて学び、自ら立つ生徒(主体的学習態度) 志を高く持ち、自らの意志で「ひと・もの・こと」に積極的にかかわる力を育む。</p> <p>(2) 互いを認め合い、学び合う生徒(協働的集団づくり) あらゆる集団での学びを通して人間関係形成能力を育成しつつ、他者に対する「おもてなしの心」をはじめとする人権感覚を磨き、集団の一員としての自覚を高めることを通して、人格の完成を目指す。</p>

総合評価		
<p>○重点目標に対する生徒アンケートの肯定的評価は、「挨拶愛語」78%、「清掃不言」91%、「花作相見」75%、「歌声響合」80%。保護者アンケート「重点に沿った教育活動をしている」89.6%、「気持ちのよい挨拶ができる」79%と、全体のほぼ80%近くとなっている。重点目標について、おおむねどの生徒にも理解され、意識してそれぞれの活動に取り組むことができていると考える。個々の数値をさらに上げられるよう、それぞれの意味や意義を生徒と共に確認しながら、日々の活動の充実を図っていきたい。</p>		
成果と課題	評価	改善策・向上策
<p>(1) 生活アンケートでの肯定的評価は、「学習内容のわからないことを質問したり自分で調べたりして理解するようにしている」68%、「自分で学習計画を立て実践し見返しをして理解を深めようとしている」76%だった。学習計画の立て方を例示したり個別指導したりしているが、まだ自身に必要な学習課題を主体的に計画し取り組むまでには至っていない。</p>	B	<p>・個々の学習内容や量、方法等について教科担任から授業時等に確認できるよう、より個々の学習状況に沿った個別指導を行っていく。</p> <p>・学級担任と連携しながら個々の学習状況の把握に努め、フィードバックしながら自己理解を進めていけるよう促していく。</p>
	b	
<p>(2) 生活アンケートでの肯定的評価は、「他者と協力しながら生活や授業の活動に取り組もうとしている」91%、「よりよい学級・学年・学校にしよう」と学級・学年・学校の活動や行事、生徒会活動に参加している」87%と高い。</p>	A	<p>・今後も様々な場面で友とかかわって活動が進められるように配慮していく。</p> <p>・観桜期活動など普段の学校生活では得ることのできない機会をさらに大切に位置づけ、支援しながら自己有用感を醸成していく。</p>
	a	

領域	対象	評価項目	評価の観点	
教育活動	教育課程	○基礎学力の向上を図り、どの生徒にも「わかる授業」の実践	○基礎・基本の定着を図り、学習内容の理解ができる授業がなされていたか。	
		○「総合的な学習の時間」を充実させるためのカリキュラム編成とその実践	○高遠中学校らしさのある「総合的な学習の時間」としてのカリキュラム編成ができたか、また、その特色を生かした実践となったか。	
	学習指導	○「対話」の質を高める授業の実践	○3つのK(「比べる」「検討する」「関連付ける」)を授業に位置づけ、対話の質を高める授業づくりができたか。	
		○ICT機器を生かした授業づくり	○授業でICT機器を効果的に活用することができたか。また、生徒がICT機器を使う場面を作れたか。	
	部活動	○高遠中学校部活動運営方針に則った部活動の充実	○部活動運営方針に則り、「ステューデントファースト」で指導をし、生徒にとって満足感のある部活動になったか。	
		○少人数の部活動で生徒を生かす工夫	○部活動の地域移行に向けての準備を行うことができたか。	
	生徒指導	○いじめのない安心安全な学校	○生徒が安心して学校生活を送ることができているか。 ○有事の際に迅速にチームで対応できているか。 ○日頃から職員間で情報交換を活発に行っているか。	
		○不登校・不応生への柔軟な対応と発達障がいへの理解の向上	○不登校生徒、不応生の状況把握と未然防止、発達障がいへの理解、早急的確な対応がなされたか。	
	学校運営	安全	○災害時の対応や防災訓練の質的向上	○安全指導、避難訓練の実施について、実質的な内容の向上(想定を幅を広げたり、臨機応変に対応する生徒を育成したり)が図られたか。
			○交通安全にかかわる生徒の意識の向上	○交通安全(歩行、自転車の乗り方、バスの乗車マナー)について、生徒の意識は高まったか。
地域と		○外部講師・地域ボランティアの活用の推進	○外部講師や地域ボランティアと連携し合い、生徒の教育活動が充実したか。	

成果と課題	評価	改善策・向上策
○生徒アンケート「授業内容を理解できている」では、肯定的評価が81%、保護者アンケート「授業がわかりやすいと言っている」では、肯定的評価が68.6%、職員アンケート「どの生徒もわかった・できたと満足する授業となるよう準備、実践している」では、肯定的評価が87%と、生徒・職員と保護者とのとらえの差が見られた。	B	<p>・1時間の授業で生徒につける力を明確にして、授業に取り組む。また、基礎・基本事項を確認する時間を確実に設ける。</p> <p>・小テストや単元テストなどを利用し、生徒が自己の理解状況を客観的にとらえたり、分析したりできるようにする。個別最適な学習となるよう、生徒に合わせた課題も準備していく。</p>
○生徒アンケート「高遠中学校らしさのある総合的な学習の時間の題材で学ぶことができる」では、肯定的評価が82%、保護者アンケート「地域に根差した特色ある教育活動を行っている」では、肯定的評価が98.5%だった。	A	
○授業アンケート「友達との対話や自分の考えを発信する機会を多くとっている」では、肯定的評価が91.2%、職員アンケート「授業で比べたり検討したり関連付けたりする場面を意識的に位置付けている」では、肯定的評価が77%だった。	B	<p>・職員の意識をさらに高め、意図的に授業の中で3つのKが位置づけられるように授業を構成していく。また、その具体の姿を職員間で共有できるような研修を位置づけていく。</p>
○授業評価アンケート「タブレットや電子黒板等を使ってわかりやすい授業をしている」では、肯定的評価が88%だった。ただし、保護者アンケート自由記述では、「授業に関係のない使い方をしているため対策が必要ではないか」とのご意見もあった。	A	
○生徒アンケート「粘り強く部活動に取り組む仲間と力を合わせて目標に向けて努力している」では、肯定的評価89%、職員アンケート「ステューデントファーストを心掛け生徒が満足感をもてるよう指導している」では、肯定的評価が82%、保護者アンケート「子どもは部活動にやりがいをもって取り組んでいる」では、肯定的評価89.4%だった。	A	<p>・新入生、保護者、部活動指導員などへ部活動運営方針を周知し、これからも「ステューデントファースト」を心掛け取り組んでいく。</p>
○11月に行われた地域移行に向けた伊那市の部活動担当会に参加し、本校部活動の現状や要望を伝えた。部によっては保護者会を設け、職員と共に検討していただいている。	B	
○生徒アンケート「差別やいじめをしない・許さないという態度ができている」では、肯定的評価が91%、保護者アンケート「教職員はいじめや暴力の未然防止に努め、適切に指導している」では、肯定的評価が68.7%だった。また、職員アンケート「同僚性を大切にして職員間の協力や報告・連絡・相談をしている」や「生徒の悩みに寄り添い差別やいじめの未然防止に努めさせない・許さない姿勢で指導している」の肯定的評価は100%だった。	A	<p>・職員アンケート「同僚性を大切にして職員間の協力や報告・連絡・相談をしている」や「生徒の悩みに寄り添い差別やいじめの未然防止に努めさせない・許さない姿勢で指導している」の肯定的評価が継続して100%となるようにしつつ、保護者にも学校での取り組みを積極的に伝えていくと共に、保護者の声もさらに学校に寄せていただけるよう努めていく。</p>
○スライドの中に生徒理解係会や特別支援教育係会を位置づけ、情報交換や情報共有を行い、不登校生徒や不応生が学校とかかわっていくことができる環境づくりを進めた。	B	
○年度当初に通学生集会を開き、安全な登下校について考えることができた。また、4回の避難訓練を実施し、自分の命を守るための行動について考えることができた。	A	<p>・様々な状況設定や避難方法、避難経路での避難訓練を計画・実施したり、行った避難訓練の振り返りを位置づけたりすることで、より実践的な訓練となるようにしていく。</p>
○保護者アンケート「教職員は、生徒の健康や安全、生活に対して適切に指導している」では、肯定的評価が80.6%、職員アンケート「施設管理面で安全への配慮を行ったり、交通安全指導や避難訓練指導等の効果向上を図ったりしている」では、肯定的評価が90%だった。	A	
○PTA文化講演会や性教育講演会等の様々な講演会、総合的な学習の時間や部活動指導、放課後学習等に多くの外部講師、地域ボランティアの方に参加していただいた。生徒も、専門的なお話に興味深く耳を傾けたり、活動の幅を広げたりする姿が見られた。	A	<p>・今後も地域のご協力のもと、新規ボランティアを募集したり、教育活動に必要なボランティアの依頼を行ったりしていく。</p> <p>・これからも高遠中学校学校運営委員会では、ご意見をいただくとともに、地域と学校をつなぐ場として、共に考えていっていただけるようにしていく。</p>
	a	

	の連携	○PTA活動の充実と開かれた学校づくり	○PTA活動、授業参観日、文化祭等への参加者が増えたか。 ○学校の様子を家庭、地域に積極的に発信したか。	○新型コロナの5類移行に伴い、PTA活動や文化祭など以前のように実施することができた。そのため、学校に来られる保護者や来校者が増えている。またその際、感想用紙を書いていただけるようにした。 ○学校だよりの発行により、学校の様子を家庭に発信することができた。また、HPにも学校だよりをアップし、地域の方や関係の方に学校の様子を発信することができた。	A	・事前に実施内容をアナウンスしながら、また内容が参加しやすいものになるよう検討し、参加していただける方がさらに増えるような参観日や文化祭を実施していく。 ・可能な範囲で情報発信をしながら、学校の様子を家庭、地域に伝えていく。また、保護者連絡ツール「t e t o r u」をさらに活用し、学校での情報を確実に伝えていく。
		a				
	研修	○教師の資質向上を図るための職員研修の充実と授業公開	○積極的に研修会に参加したり、授業公開をしたりすることで、資質向上を図ることができたか。	○総合教育センター研修や教科教育研修、他校での授業公開に参加を促すことで、本年度も可能な範囲で参加することができた。また、職員会議ごとに毎回15分の職員研修の時間を位置づけた。 ○ICTに関する職員研修を実施し、スクールタクトを実際の授業に用いて授業を行ったり、授業研究会でジャムボードを利用して意見を収集・共有したりすることができた。また、G o o g l e classroomやGoogle formsを利用して学級等の情報伝達を行ったり生徒会活動での意見交換を行ったりすることができた。	A	・年度当初に職員各自の研修履歴記録簿を確認し、年内のおよその研修計画が立てられるようにする。参加できる研修会情報を関係の職員に紹介・共有し、参加を促していく。また、授業研修をはじめ、校内研修がさらに充実できるよう取り組んでいく。 ・職員研修を継続して実施し、ICT機器の効果的な活用について職員の理解やスキルを上げていく。併せて、生徒も授業だけでなく、学活や生徒会活動などでさらに有効利用できるよう、全校で研究・研修を進めていく。
		○ICTにかかわる継続的な研修の推進	○ICTにかかわる研修を授業に活かすことができたか。 ○職員・生徒ともにICT活用の工夫と向上が見られたか。		a	
					A	
					a	